

SCOAP³プロジェクトに係る状況について

1. SCOAP³とは

SCOAP³(Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics)は、欧州合同素粒子原子核研究機構(CERN)が主導する、高エネルギー物理学(HEP)分野の査読付き学術雑誌論文のオープンアクセスを実現する国際連携プロジェクトです。

世界各国の研究助成団体や図書館がコンソーシアムを形成し、従来図書館が出版社に支払ってきた購読料を論文出版加工料(APC)に振り替えることで、HEP分野の主要な学術雑誌のオープンアクセスを実現するものです。

※ 従来のモデルとSCOAP³のモデルの違いについては、以下の図をご参照願います。

→ <https://www.nii.ac.jp/sparc/scoap3/pdf/fig1.pdf>

2. フェーズ1(2014年～2016年)の状況

2012年7月に、7社12誌が対象雑誌となることが発表されましたが、2013年6月になってAmerican Physical Society(APS)が一方向的に離脱したことで、フェーズ1の段階では、APSの2誌を除く6社10誌が対象雑誌となりました。

全世界で47か国が参加し、2014年1月から対象雑誌のオープンアクセスによる提供が開始され、2016年3月には、本プロジェクトによるオープンアクセス論文が10,000論文に達しています。

3. 日本におけるフェーズ1の取組状況

2007年7月にCERNから各国の関連機関に「関心表明書(Expression of Interest: EoI)」の提出依頼がなされ、日本からは、2011年9月21日に、国立情報学研究所、国公立大学図書館協力委員会、高エネルギー加速器研究機構の連名によるEoIが提出されました。その後、2012年11月に国立情報学研究所(NII)が3者を代表して日本のNational Contact Pointとなりました。

国内の大学図書館等に対する参加意向確認を経て、2013年12月に、NIIを代表としてCERNとの間で覚書(Memorandum of Understanding: MoU)を締結し、本プロジェクトの正式な参加国となりました。各国の個々の参加機関はパートナーと呼ばれており、フェーズ1における日本のパートナー機関は34機関です。

各国に期待される拠出総額は、過去に対象雑誌に掲載されたHEP分野の論文数の国別割合に比例して算定されており、日本の論文数は世界全体の7.1%のシェアを占めています。残念ながら、34機関からの所定の拠出総額だけでは、日本に期待された金額の7割以下しか拠出できていない状況となっています。

4. 日本におけるフェーズ 2 (2017 年～2019 年) の取組状況

論文総数の増加に比例して各国にフェーズ 1 の実拠出額の 2%増の拠出が求められました。このことを踏まえ、参加意向を確認したところ、フェーズ 2 初年の 2017 年における日本のパートナー機関は 40 機関となりました。また、次項にある通り 2018 年に APS が参加したことに伴い、パートナー機関は 69 機関となりました。しかしながら、フェーズ1同様、日本に期待されている拠出総額に大きく達していない状況に変わりなく、世界第 4 位の論文投稿国である日本の立場として、学術コミュニティも含めさらなる貢献が求められている状況であります。

なお、フェーズ 2 では、Institute of Physics 刊行の 2 誌が SCOAP³ 対象雑誌から外れたため、SCOAP³ 対象雑誌は 2017 年 1 月時点で 8 誌となりました。これに 2018 年から APS3 誌が加わり、2018 年 1 月時点で 11 誌となっています。

5. フェーズ2における APS の参加(2018 年～2019 年)について

2018 年からはアメリカ物理学会 (American Physical Society:APS) が SCOAP³ に加わり、APS の刊行する Physical Review C, Physical Review D, Physical Review Letters の 3 誌に掲載されている HEP 分野の論文がオープンアクセスになることが発表されました (2017 年 4 月 https://scoap3.org/aps_joins_scoap3/)。これにより、2018 年以降は世界中の HEP 分野の論文の約 90%がオープンアクセスとなりました。

APS 以外の拠出額の原価に当たる部分は、2017～2019 年の間は変わりません。一方 APS は HEP 分野論文掲載率と係数 A は変わりませんが、原価 (ドル建て) は値上げとなりました。

2018 年及び 2019 年の各購読機関の APS 契約金額からは SCOAP³ 拠出額が削減されています。

既に SCOAP³ に参加している APS3 誌購読機関は、既存の拠出額+APS 分拠出額を拠出することになります。

6. 支払いの仕組み

まず、CERN から NII に対して請求書(ユーロ及び米ドル建て)が届き、日本の分をまとめて NII が支払います。その後、NII から参加機関に対して請求書(円建て)を送ります。

各々の支払いの段階で為替レートの影響を受けるため、NII から参加機関に対して請求書を送る前に、円建てによる拠出確定額をお知らせします。

SCOAP³ の詳細については、以下のサイトも参考にしてください。

(CERN による案内)<https://scoap3.org/>

(日本国内向けサイト):<https://www.nii.ac.jp/sparc/scoap3>

①対象雑誌

出版社	タイトル
American Physical Society	Physical Review C Physical Review D Physical Review Letters
Elsevier	Nuclear Physics B Physics Letters B
Hindawi	Advances in High Energy Physics
IOP Publishing/Chinese Physical Society	Chinese Physics C
Jagellonian University	Acta Physica Polonica B
OUP/Physical Society of Japan	Progress of Theoretical & Experimental Physics
Springer	European Physical Journal C Journal of High Energy Physics

②フェーズ 2 国内参加機関(2018 年 12 月現在)

北海道大学	高エネルギー加速器研究機構
岩手大学	自然科学研究機構 国立天文台
東北大学	自然科学研究機構 核融合科学研究所
山形大学	情報・システム研究機構 国立情報学研究所
筑波大学	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
埼玉大学	理化学研究所
千葉大学	公立はこだて未来大学
東京大学	首都大学東京
東京工業大学	横浜市立大学
お茶の水女子大学	大阪府立大学
新潟大学	大阪市立大学
山梨大学	千葉工業大学
信州大学	神奈川大学
総合研究大学院大学	東海大学
富山大学	慶應義塾大学
金沢大学	工学院大学
名古屋大学	上智大学
名古屋工業大学	中央大学
三重大学	東京家政大学
京都大学	東京工芸大学
京都工芸繊維大学	東京女子大学
大阪大学	日本大学
神戸大学	法政大学
奈良女子大学	明治大学

北陸先端科学技術大学院大学	明治学院大学
奈良先端科学技術大学院大学	立教大学
岡山大学	早稲田大学
広島大学	愛知医科大学
愛媛大学	名城大学
九州大学	立命館大学
九州工業大学	大阪電気通信大学
熊本大学	関西大学
琉球大学	甲南大学
沖縄科学技術大学院大学	関西学院大学
放送大学学園	

(2018 年 12 月版)